

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここに来てくださることを信じ、聖霊様をあがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょう。
- ③ ディボーションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でのいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2021.8.9-8.15

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

3:12 そうすると、イスラエル人はまた、主の目の前に悪を行なった。彼らが主の目の前に悪を行なったので、主はモアブの王エグロンを強くして、イスラエルに逆らわせた。
3:13 エグロンはアモン人とアマレク人を集め、イスラエルを攻めて打ち破り、彼らはなつめやしの町を占領した。
3:14 それで、イスラエル人は十八年の間、モアブの王エグロンに仕えた。
3:15 イスラエル人が主に叫び求めたとき、主は彼らのために、ひとりの救助者、ベニヤミン人ゲラの子で、左ききのエフデを起こされた。イスラエル人は、彼を通してモアブの王エグロンにみつぎものを送った。
3:16 エフデは長さ一キュビトの、一振りのもろ刃の剣を作り、それを着物の下の右ももの上の帯にはさんだ。
3:17 こうして、彼はモアブの王エグロンにみつぎものをささげた。エグロンは非常に太っていた。
3:18 みつぎものをささげ終わったとき、エフデはみつぎものを運んで来た者たちを帰らせ、
3:19 彼自身はギルガルのそばの石切り場から戻って来て言った。「王さま。私はあなたに秘密のお知らせがあります。」すると王は、「今、言うな。」と言った。そこで、王のそばに立っていた者たちはみな、彼のところから出て行った。
3:20 エフデは王のところへ行った。そのとき、王はひとりで涼しい屋上の部屋に座していた。エフデが、「私にあなたへの神のお告げがあります。」と言うと、王はその座から

立ち上がった。

3:21 このとき、エフデは左手を伸ばして、右ももから剣を取り出し、王の腹を刺した。
3:22 柄も刃も、共にはいつてしまった。彼が剣を王の腹から抜かなかったので、脂肪が刃をふさいでしまった。エフデは窓から出て、
3:23 廊下へ出て行き、王のいる屋上の部屋の戸を閉じ、かんぬきで締めた。
3:24 彼が出て行くと、王のしもべたちがやって来た。そして見ると、屋上の部屋にかんぬきがかけられていたので、彼らは、「王はきっと涼み部屋で用をたておられるのだろう。」と思った。
3:25 それで、しもべたちはいつまでも待っていたが、王が屋上の部屋の戸をいっこうにあげないので、かぎを取ってあげると、なんと、彼らの主人は床の上に倒れて死んでいた。
3:26 エフデはしもべたちが手間取っている間にのがれて、石切り場の所を通り過ぎ、セイラにのがれた。
3:27 エフデは行って、エフライムの山地で角笛を吹き鳴らした。すると、イスラエル人は彼といっしょに山地から下って行き、彼はその先頭に立った。
3:28 エフデは彼らに言った。「私を追って来なさい。主はあなたがたの敵モアブ人をあなたがたの手に渡された。」それで、彼らはエフデのあとについて下って行き、モアブへのヨルダン川の渡し場を攻め取って、ひとりも渡らせなかった。
3:29 このとき彼らは約一万人のモアブ人を打った。彼らはみなたくましい、力ある者たちであったが、ひとりも助からなかった。

3:30 このようにして、モアブはその日イスラエルによって征服され、この国は八十年の間、穏やかであった。
3:31 エフデのあとにアナテの子シャムガルが起こり、牛の突き棒でペリシテ人六百人を打った。彼もまたイスラエルを救った。

イスラエルは平穩であることによってまた神を忘れて、その結果苦難を招きました。エグロンを打ったエフデは左利きですが、それは右手が使えなかったことを意味します。その弱さがむしろ神様に用いられたのです。通常とは反対側に剣を隠していたので疑われずにたやすく王に近づくことができました。シャムガルもまた牛の突き棒という粗末な武器しかありませんでしたが、それでも主によって用いられて勝利を得たのです。主の勇士は初めは弱い者であったことに心を留めましょう。謙遜に主のために立ち上がりましょう。

- ① 神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）
- ② どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）
- ③ 生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）
- ④ この世にあって何を実践しますか？





4:1 その後、イスラエル人はまた、主の目の前に悪を行なった。エフデは死んでいた。
 4:2 それで、主はハツォルで治めていたカナンの王ヤビンの手に彼ら売り渡した。ヤビンの將軍はシセラで、彼はハロシエテ・ハゴイムに住んでいた。
 4:3 彼は鉄の戦車九百両を持ち、そのうえ二十年の間、イスラエル人をひどく圧迫したので、イスラエル人は主に叫び求めた。
 4:4 そのころ、ラビドテの妻で女預言者デボラがイスラエルをさばいていた。
 4:5 彼女はエフライムの山地のラマとベテルとの間にあるデボラのなつめやしの木の下にいつもすわっていたので、イスラエル人は彼女のところに上って来て、さばきを受けた。
 4:6 あるとき、デボラは使いを送って、ナフタリのケデシュからアビノアムの子バラクを呼び寄せ、彼に言った。「イスラエルの神、主はこう命じられたではありませんか。『タボル山に進軍せよ。ナフタリ族とゼブルン族のうちから一万を取れ。』」
 4:7 わたしはヤビンの將軍シセラとその戦車と大軍とをキション川のあなたのところに引き寄せ、彼をあなたの手に渡す。』」
 4:8 バラクは彼女に言った。「もしあなたが私と一緒に行ってくださるなら、行きましょう。しかし、もしあなたが私と一緒に行ってくださらないなら、行きません。」
 4:9 そこでデボラは言った。「私は必ずあなたと一緒に行きます。けれども、あなたが行こうとしている道では、あなたは光栄を得ることはできません。主はシセラをひとりの女の手売り渡されるからです。」こうし

て、デボラは立ってバラクといっしょにケデシュへ行った。

4:10 バラクはゼブルンとナフタリをケデシュに呼び集め、一万人を引き連れて上った。デボラも彼といっしょに上った。

パウロは「私は、女が教えたり男を支配したりすることを許しません。…アダムは感わされなかったが、女は感わされてしまい、あやまちを犯しました。」と、テモテに書き送っています。確かに2000年前の世界では女性が指導者であることは社会通念上受け入れがたいことであり、一般的な特徴としては女性よりも男性の方が指導者に向いていると言えるでしょう。

ただしそれは一般的な特徴であって、女性が絶対に指導者になってはならない、または絶対にできないというものではありません。この箇所は神様が女性の指導者を絶対に認めないわけではないことを示しています。

デボラは女性であって、当時もまた指導者としては非常に特殊であり、また不利であることは否めません。しかし、主の御心を求めて献身しているということこそが重要なものであって、男性でさえあれば主に献身していなくても、女性の上に乗るだということではありません。

女性だけでなく、一般的に「指導者には向かない」と思われるような立場の人でも、主の召しがあれば表に立つ決断も必要です。

デボラは戦場に赴きました。それは命の危険にさらされることです。目立たない立場であっても安心なところばかり選ばないで、主のために前線に出て行きましょう。

① 神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

② どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③ 生き方にどう適用しますか？（あなたその部分の主は扱おうとしておられますか）

④ この世にあって何を実践しますか？





4:11 ケニ人ヘベルは、モーセの義兄弟ホバブの子孫のカインから離れて、ケデシュの近くのツァアナニムの樫の木の下で天幕を張っていた。

4:12 一方シセラは、アビノアムの子バラクがタボル山に登った、と知らされたので、

4:13 シセラは鉄の戦車九百両全部と、自分といっしょにいた民をみな、ハロシエテ・ハゴイムからキション川に呼び集めた。

4:14 そこで、デボラはバラクに言った。

「さあ、やりなさい。きょう、主があなただの手にシセラを渡される。主はあなたの前に行かれるではありませんか。」それで、バラクはタボル山から下り、一万人が彼について行った。

4:15 主がシセラとそのすべての戦車と、すべての陣営の者をバラクの前に剣の刃でかき乱したので、シセラは戦車から飛び降り、徒歩で逃げた。

4:16 バラクは戦車と陣営をハロシエテ・ハゴイムに追いつめた。こうして、シセラの陣営の者はみな剣の刃に倒れ、残された者はひとりもいなかった。

4:17 しかし、シセラは徒歩でケニ人ヘベルの妻ヤエルの天幕に逃げて来た。ハツォルの王ヤビンとケニ人ヘベルの家とは親しかったからである。

4:18 ヤエルはシセラを迎えに出て来て、彼に言った。「お立ち寄りください、ご主人さま。私のところにお立ち寄りください。ご心配には及びません。」シセラが彼女の天幕にはいったので、ヤエルは彼に毛布を掛けた。

4:19 シセラはヤエルに言った。「どうか、

水を少し飲ませてください。のどが渴いているから。」ヤエルは乳の皮袋をあけて、彼に飲ませ、また彼をおおった。

4:20 シセラはまた彼女に言った。「天幕の入口に立っていてください。もしだれかが来て、『ここにだれかいらないか。』とあなたに尋ねたら、『いない。』と言ってください。」

4:21 だが、ヘベルの妻ヤエルは天幕の鉄のくいを取ると、手に槌を持ってそと彼のところへ近づき、彼のこめかみに鉄のくいを打ち込んで地に刺し通した。彼は疲れていたもので、熟睡していた。こうして彼は死んだ。

4:22 ちょうどその時、バラクがシセラを追って来たので、ヤエルは彼を迎えに出て、言った。「さあ、あなたの捜している人をお見せしましょう。」彼がヤエルのところに来ると、そこに、シセラは倒れて死んでおり、そのこめかみには鉄のくいが刺さっていた。

4:23 こうして神はその日、イスラエル人の前でカナンの王ヤビンを服従させた。

4:24 それから、イスラエル人の勢力がますますカナンの王ヤビンを圧するようになり、ついにカナンの王ヤビンを断ち滅ぼした。

鉄の戦車九百両全部で戦うシセラは勝利を確信していたでしょう。一方バラクは特別な武器も戦術もありませんでした。ただあるのは主の約束だけでした。しかもその信仰は揺るぎないものとは言えず、女性預言者デボラに頼らなければならないものでした。しかし、主のことが全てであって、結局イスラエル軍はシセラを打ち負かしたのです。

歴戦のつわものであり、数え切れないほどの重

戦車を要した大軍が、実戦経験のない女性をリーダーとするイスラエルに負け、そして女性によってとどめを刺されたのです。弱い者が強い者に勝ったように見えますが、実はそうではありません。主がともにおられる方が強い者なのです。主がおられない側、主に従わない者は弱者です。

主がおられるので、私は強いと宣言できる者になりましょう。

① 神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

② どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③ 生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④ この世にあって何を実践しますか？





5:1 その日、デボラとアビノアムの子バラクはこう歌った。
 5:2 「イスラエルで髪を乱すとき、民が進んで身をささげるとき、主をほめたたえよ。
 5:3 聞け、王たちよ。耳を傾けよ、君主たちよ。私は主に向かって歌う。イスラエルの神、主にほめ歌を歌う。
 5:4 主よ。あなたがセイルを出て、エドムの野を進み行かれたとき、大地は揺れ、天もまた、したり、雲は水をしたたらせた。
 5:5 山々は主の前に揺れ動いた。シナイもまた、イスラエルの神、主の前に。
 5:6 アナテの子シャムガルのとき、またヤエルのときに、隊商は絶え、旅人はわき道を通った。
 5:7 農民は絶えた。イスラエルに絶えた。私、デボラが立ち、イスラエルに母として立つまでは。
 5:8 新しい神々が選ばれたとき、城門で戦いがあった。イスラエルの四万人のうちに、盾と槍が見られたであろうか。
 5:9 私の心はイスラエルの指導者たちに、民のうちの進んで身をささげる者たちに向かう。主をほめたたえよ。
 5:10 黄かっ色のろばに乗る者、さばきの座に座する者、道を歩く者よ。よく聞け。
 5:11 水汲み場での、水を汲む者たちの声に。そこで彼らは主の正しいみわざと、イスラエルの主の農民の正しいわざを唱えている。そのとき、主の民は城門におりて来た。
 5:12 目ざめよ、目ざめよ。デボラ。目ざめよ、目ざめよ。歌声をあげよ。 起きよ。バラク。とりこを捕えて行け。アビノアムの

子よ。
 5:13 そのとき、生き残った者は貴人のようにおりて来た。主の民は私のために勇士のようにおりて来た。
 5:14 その根がアマレクにある者もエフライムからおりて来た。ベニヤミンはあなたのあとに続いて、あなたの民のうちにいる。指導者たちはマキルからおりて来た。指揮をとる者たちもゼブルンから。
 5:15 イッサカルのつかさたちはデボラとともにいた。イッサカルはバラクと同じく歩兵とともに谷の心を突進した。ルベンの支族の間では、心の定めは大きかった。
 5:16 なぜ、あなたは二つの鞆袋の間にすわって、羊の群れに笛吹くのを聞いているのか。ルベンの支族の間では、心の秘密は大きかった。
 5:17 ギルアデはヨルダン川のかなたに住んでいた。なぜダンは船にとどまったのか。アシェルは海辺にすわり、その波止場のそばに住んでいた。
 5:18 ゼブルンは、いのちをも賭して死ぬ民。野の高い所にいるナフタリも、そうである。

イスラエルは紅海で主がエジプトを打ち、勝利が与えられた直後にも主をほめたたえて歌を歌いました。タンバリンも用いられたので、それは音楽であったことがわかります。
 私たちも主への感謝を、またそのみわざゆえの賛美を主にささげるべきです。それは日常の中、または聖日礼拝の中です。単に歌を歌うだけでなく、現実に取りかき主のすばらしいわざを思いながら賛美するなら、それはすばらしく力あるものとなるでしょう。
 賛美は主をあがめるので、聖霊あふかれ、すばらしい真理に導かれます。ここでも同じです。「髪を乱す」とは頭髮を切らないことで、そ

れは髪に請願を立てた状態であり、そのために献身している様子を表します。献身があるから勝利（またはその約束と信仰）があり、それによって「主をほめたたえる」ことに現実感があるのです。

「主をほめたたえよ」とあり、また「デボラ。目ざめよ。」とあります。勝利のためにはリーダーだけではなく、主が立てたリーダーによって勝利できるという信仰も必要です。それは主への信頼、そして賛美から湧いてくるのです。

① 神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

② どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③ 生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④ この世にあって何を実践しますか？





5:19 王たちはやって来て、戦った。そのとき、カナンの王たちは、メギドの流れのそばのタナクで戦って、銀の分捕り品を得なかった。

5:20 天からは、星が下って戦った。その軌道を離れて、シセラと戦った。

5:21 キション川は彼らを押し流した。昔からの川、キションの川。私のたましいよ。力強く進め。

5:22 そのとき、馬のひづめは地を踏み鳴らし、その荒馬はけりまくる。

5:23 主の使いは言った。『メロズをのろえ、その住民を激しくのろえ。彼らは主の手助けに来ず、勇士として主の手助けに来なかったからだ。』

5:24 女の中で最も祝福されたのはヤエル、ケ二人へベルの妻。天幕に住む女の中で最も祝福されている。

5:25 シセラが水を求めると、ヤエルは乳を与え、高価な鉢で凝乳を勧めた。

5:26 ヤエルは鉄のくいを手にし、右手に職人の槌をかざし、シセラを打って、その頭に打ち込み、こめかみを砕いて刺し通した。

5:27 ヤエルの足もとに彼はひざをつき、倒れて、横たわった。その足もとにひざをつき、倒れた。ひざをついた所で、打ち殺された。

5:28 シセラの母は窓越しに、格子窓越しに外を見おろして嘆いた。『なぜ、あれの車の来るのがおそいのか。なぜ、あれの車の歩みが遅れているのか。』

5:29 知恵のある姫君たちは彼女に答え、彼女も同じことばをくり返した。

5:30 『彼らは分捕り物を見つけ出し、それ

を分けているではありませんか。めいめいひとりの勇士にひとりかふたりの娘を。シセラには染めた織物の分捕り物を。染めた織物の分捕り物、色とりどりに刺繍した織物。分捕り物として、首には二枚の刺繍した織物を。』

5:31 主よ。あなたの敵はみな滅び、主を愛する者は、力強く日がさし出るようにしてください。」こうして、この国は四十年の間、穏やかであった。

主が900台の戦車をもともせず勝利を与えられた様子が歌われています。始めは星が出る天候であり、敵は夜襲を警戒していませんでしたが、ほどなく大雨となりキション川が溢れ戦車を押し流しましたはぬかるみで動けなくさせました。

また雨音で行軍の音を欠き消されたイスラエルは用意に不意打ちをかけることができました。勝利は始めから主のものでした。

「メロズをのろえ」とありますが、彼らは主の戦いに参加しませんでした。大切な主のときに、私たちは「助け」なかったと言われたいように、皆が参加していることはしっかりと協力したいと思います。

結局メロズが協力しなくても、神様は別のところから助けを与えられます。ヤエルは女性でありながら勇者のように、傲慢な敵将シセラを打ったのです。

今主のみわがが周囲で進んでいるなら、ヤエルのように主の側につき、協力しましょう。

① 神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

② どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③ 生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④ この世にあって何を実践しますか？



6:1 イスラエル人はまた、主の目の前に悪を行なった。そこで、主は七年の間、彼らをミデヤン人の手に渡した。

6:2 こうして、ミデヤン人の勢力はイスラエルを押えたので、イスラエル人はミデヤン人を避けて、山々にある洞窟や、ほら穴や、要害を自分たちのものにした。

6:3 イスラエル人が種を蒔くと、いつでもミデヤン人や、アマレク人や、東の人々が上って来て、イスラエル人を襲った。

6:4 そしてイスラエル人に対して陣を敷き、その地の産物を荒らして、ガサに至るまで、イスラエル人に羊や牛やろばのためのえささえも残さなかった。

6:5 彼らが自分たちの家畜と天幕を持って上って来たからである。彼らはいなごの群衆のようにしてやって来た。彼らとそのらくだは数えきれないほどであった。しかも、彼らは国を荒らすためにはいて来たのであった。

6:6 それで、イスラエルはミデヤン人のために非常に弱くなっていった。すると、イスラエル人は主に叫び求めた。

6:7 イスラエル人がミデヤン人のために主に叫び求めたとき、

6:8 主はイスラエル人にひとりの預言者を遣わした。預言者は彼らに言った。「イスラエルの神、主はこう仰せられる。わたしはあなたがたをエジプトから上らせ、あなたがたを奴隷の家から連れ出した。

6:9 わたしはあなたがたをエジプト人の手と、すべてあなたがたを圧迫する者の手から助け出し、あなたがたの前から彼らを追い出して、その国をあなたがたに与えた。

6:10 それでわたしはあなたがたに言った。『わたしはあなたがたの神、主である。あなたがたが住んでいる国のエモリ人の神々を恐れてはならない。』ところが、あなたがたはわたしの声に聞き従わなかった。』

「また…悪を行った」とありますが、これが士師記で扱う人間の罪性です。私たちも主に守られると安心して主から離れてしまったり、または御心を無視するようなことがないようにしましょう。

「ミデヤン人の手に渡した」とありますが、主が直接にイスラエルに手を下したわけではありません。ミデヤン人に限らず周辺の民はいつもイスラエルを狙っていたのです。または神様のこれまでのみわざを知っているのに、イスラエルを恐れ弱体化させることを狙っていたわけです。

それをこれまで抑えてきたのは主の守りに他ならないのですが、その守りがなくなってしまったということです。私たちも常に主の守りのゆえに生かされていることを忘れないようにしましょう。

それでも「イスラエル人は主に叫び求めた。」とあります。それこそが最後の砦（とりで）です。それまでがどうであっても、従わない自分であったとしても、主の恵にとって遅いということはありません。

主に助けを求めた、その答えが「聞き従わなかった」というものです。問題の解決ばかりに固執しないで、むしろ自分の信仰の歩みを帰り見る必要もあります。

① 神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

② どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③ 生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④ この世にあって何を実践しますか？



6:11 さて主の使いが来て、アビエゼル人ヨアシュに属するオフラにある榿の木の下にすわった。このとき、ヨアシュの子ギデオンはミデヤン人からのがれて、酒ぶねの中で小麦を打っていた。

6:12 主の使いが彼に現われて言った。「勇士よ。主があなたといっしょにおられる。」

6:13 ギデオンはその御使いに言った。「ああ、主よ。もし主が私たちといっしょにおられるなら、なぜこれらのことがみな、私たちに起こったのでしょうか。私たちの先祖たちが、『主は私たちをエジプトから上らせただけではないか。』と言って、私たちに話したあの驚くべきみわざはみな、どこにありますか。今、主は私たちを捨てて、ミデヤン人の手に渡されました。」

6:14 すると、主は彼に向かって仰せられた。「あなたのその力で行き、イスラエルをミデヤン人の手から救え。わたしがあなたを遣わすのではないか。」

6:15 ギデオンは言った。「ああ、主よ。私にどのようにしてイスラエルを救うことができましょう。ご存じのように、私の分団はマナセのうちで最も弱く、私は父の家で一番若いのです。」

6:16 主はギデオンに仰せられた。「わたしはあなたといっしょにいる。だからあなたはひとり打ち殺すようにミデヤン人を打ち殺そう。」

6:17 すると、ギデオンは言った。「お願いします。私と話しておられるのがあなたであるというしるしを、私に見せてください。」

6:18 どうか、私が贈り物を持って来て、あ

なたのところに戻り、御前にそれを供えるまで、ここを離れないでください。」それで、主は、「あなたが戻って来るまで待とう。」と仰せられた。

6:19 ギデオンはうちにはいり、一匹のやぎの子を料理し、一エバの粉で種を入れないパンを作り、その肉をかごに入れ、また吸い物をなべに入れ、榿の木の下にいる方のところに持って来て、供えた。

6:20 すると、神の使いはギデオンに言った。「肉と種を入れないパンを取って、この岩の上に置き、その吸い物を注げ。」それで彼はそのようにした。

6:21 すると主の使いは、その手にしていた杖の先を伸ばして、肉と種を入れないパンに触れた。すると、たちまち火が岩から燃え上がって、肉と種を入れないパンを焼き尽くしてしまった。主の使いは去って見えなくなった。

6:22 これで、この方が主の使いであったことがわかった。それで、ギデオンは言った。「ああ、神、主よ。私は面と向かって主の使いを見てしまいました。」

6:23 すると、主はギデオンに仰せられた。「安心しなさい。恐れるな。あなたは死なない。」

6:24 そこで、ギデオンはそこに主のために祭壇を築いて、これをアドナイ・シャロムと名づけた。これは今日まで、アビエゼル人のオフラに残っている。

「酒ぶねの中で小麦を打っていた」ということは、敵を恐れてのことで、戦う意思もなく問題から逃れていたようすがわかります。それに対して主の使いは「勇士よ」と言っています。それは主

の意思です。私たちの現実では、時には主は御使いのようにクリスチャンのこぼれを用いることもあります。「自分はだめだから」と逃れないで、「勇士」であるということも自覚しましょう。

その勇士の根拠は「主があなたといっしょにおられる」ということです。主は「見よ。世の終わりまでもあなたがたといっしょにいる」と約束しておられます。それを忘れないようにしましょう。

ギデオンは主であることを試したのですが、それは使命を確認するためのものです。自分の願望のためではありません。現在は火の”実験”はいりません。聖書があるからです。ことばや思い、または幻が与えられたとき、聖書から、語っておられる方が主であることを確認しなくてはなりません。そして聖書に従うのです。

① 神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

② どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③ 生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④ この世にあって何を実践しますか？

